

Ab-Rapid PuRe EXTM による マウスモノクローナルIgG1のワンステップ精製

精製条件 精製方法は添付プロトコールに従った。

カラム: Ab-Rapid PuRe EX (0.5 mL gel/column)
 サンプル: マウス腹水2 mL (結合bufferにて3倍希釈)
 結合buffer: PBS
 溶出buffer: 0.1 M Glycine-HCl, pH 2.8
 流速: 約2 mL/min (サンプル添加)、約2 mL/min (溶出)
 溶出画分: 1.5 mL
 すべての送液はシリンジを使って手動で送液した。

A280 結果

溶出画分: 2.46 mg/mL
 ↓
 マウス腹水2 mLから
 3.8 mg のマウスIgG1 を精製

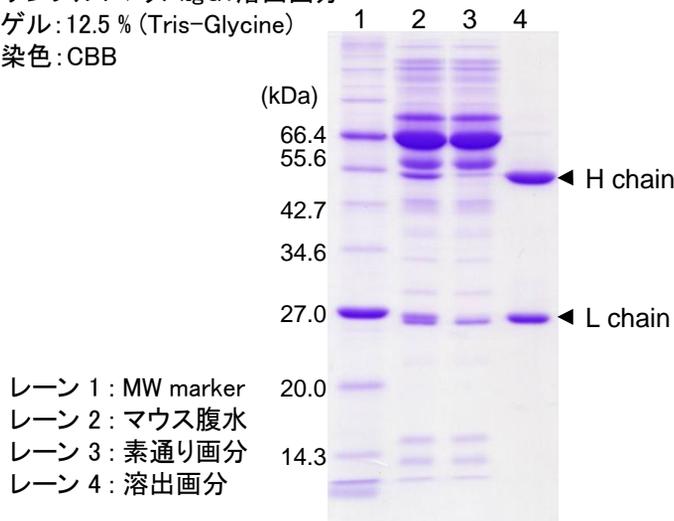
溶出画分のエンドキシン分析

溶出画分: 0.4 EU / mg IgG1

溶出画分の電気泳動

SDS-PAGE

サンプル: マウスIgG1溶出画分
 ゲル: 12.5% (Tris-Glycine)
 染色: CBB



レーン 1 : MW marker
 レーン 2 : マウス腹水
 レーン 3 : 素通り画分
 レーン 4 : 溶出画分

Ab-Rapid PuRe EX カラムを使って所定のプロトコールに従いマウス腹水からIgG1を精製した。平衡化から溶出までの所要時間は10分以内であった。タンパク質濃度測定により、腹水の2 mL から 3.8 mg のマウスIgG1 を精製することができた。SDS-PAGE による純度チェックでは、IgG1が主要バンドとして検出された。また、精製IgG1中のエンドキシンテストの結果、0.4 EU/mg IgG1 の含量であった。Ab-Rapid PuRe EX カラムからエンドキシンは検出されないことから、エンドキシンは無菌操作をせずに使用しているマウス腹水に由来すると考えられる。操作に時間を要するが、流速をさらに下げることでIgG結合量のアップが見込まれる。

プロテノバ株式会社

〒769-2604
 香川県東かがわ市西村1488番地1
 TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703
 ホームページ <http://protenova.com>